

令和5年度第1回秋田県立近代美術館協議会（要旨）

日 時： 令和5年6月9日（金） 13：30～15：30

会 場： 秋田県立近代美術館 研修室（6F）

出席者	： 会 長	木 村	司	横手市立横手南小学校長		
	副会長	伊 藤	聖 子	株式会社秋田ふるさと村営業部イベント企画広報課長		
	委 員	池 田	聖 子	色々美術研究所代表		
	”	小笠原	豊	小笠原樺工房代表		
	”	鎌 田	あかね	Little A 代表		
	”	木 村	智 子	横手市教育委員会生涯学習課長		
	”	長 沢	薫	秋田県書道連盟常任理事		
	事務局	森 川	勝 栄	秋田県教育庁生涯学習課主任学芸主事		
	”	仲 町	啓 子	秋田県立近代美術館 特任館長		
	”	佐 藤	哉 子	”	館 長	
	”	佐々木	和 志	”	総務班	副主幹(兼)班長
	”	石 井	和 章	”	”	専門員
	”	福 田	裕 奈	”	”	主任
	”	秩 父	大 輝	”	”	主事
	”	木 村	雅 洋	”	学芸班	学芸主事(兼)班長
	”	鈴 木	秀 一	”	”	副主幹
	”	保 泉	充	”	”	主査(兼)学芸主事
	”	藤 井	正 輝	”	”	学芸主事
	”	北 島	珠 水	”	”	”
	”	秋 田	達 也	”	”	主査(兼)学芸主事
	”	鈴 木	京	”	”	”

<次第>

1. 開会
2. 任命書交付
3. 特任館長あいさつ
4. 委員・職員紹介
5. 会長選出
6. 協議
 - (1) 令和4年度近代美術館事業の概況について
 - (2) 令和5年度近代美術館事業の概要について
 - (3) (新)メタバース×MUSEUMあきた構築事業について
 - (4) 令和5年度ミュージアム活性化事業「特別展」の外部評価について
 - (5) その他
7. 閉会
8. 館内視察

<協議概要>

(発言者：●委員 →事務局)

- 広報活動について、どのようなことを行っているのか。また、展覧会等ポスターの配付先はどういった場所か。

→印刷物の配付や公式ウェブサイトでの告知等がメインである。実行委員会形式の展覧会であれば、メディアとの協働によりCMや新聞広告による告知も行っている。展覧会のアンケート結果によると、紙媒体やメディアを通じた広報が効果的とする方が多い。当館でもSNSによる広報も行っているが確かに反応は薄い。また、全県の小中学校、高等学校及び特別支援学校の他、道の駅や商業施設等にも配付している。

●地域の美術教室には、幅広い年代の方が集まり、美術に関して広く情報交換が行われている。そのような場所にもチラシ等を配付すれば、より効果があるのではないかと思う。

●来館者数が目標より少なく、もっと多くの方に来館してほしいという気持ちは承知しているが、来館者の適正規模は、どのように設定・算出しているのか。

→実際は、前年度までに、各展覧会の開催規模に応じて来館者数を設定している。実行委員会形式の特別展については、その費用対効果を考慮し設定している。冬期間は、例年、豪雪の影響を受け、来館者数は伸び悩むため、過去の実績を踏まえ算出している。近年は、コロナの影響もあり、目標を達成できない状況が続いており、苦慮している。

●コロナ5類移行により、何か対応の変化はあるか。近年のコロナ禍とはまた違った発信や集客が実施できることから、来館者が増えることを期待している。

→セカンドスクールの利用について、今年度は5月から受け入れを開始しており、問い合わせも増加している。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から受け入れを中止していた実技体験についても3年ぶりに再開する。また、キッズ・ルームは6月から一部開放としており、今後、周囲の感染症対策の状況も参考にしながら対応していきたい。

●美術館は様々な人に芸術の魅力を発信する機関だと思うが、ターゲットによって見せ方が異なってくる。展示内容ごとのターゲットについて意識していることはあるか。また、展覧会によって告知のターゲットを絞ってみてはどうか。

→秋田ふるさと村に立地する当館では、ファミリー層を対象とした展覧会を開催した方が集客面では効果的である。一方本県にも年配層を中心に、都心部でしか見ることのできない近現代美術の名品展に興味を持つ方が少なからずおり、そのような方々のニーズに応える意味で、昨年度は堀文子展やサントリー美術館展などを開催し、その都度ターゲットを意識した広報を行った。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大や対象とした年齢層の高齢化などにより来館者数の伸び悩みが想像以上に大きかったため、より現状に即した告知とターゲットの設定について再考したい。

●秋田県ではこれからインバウンドの回復が期待されているが、近代美術館では何か対応や対策を考えていることがあるか。

→今年度の特別展「皇室の名宝と秋田」では、全作品の解説等に英語翻訳を加えることにしている。また、パンフレットにも英語翻訳を加えることにしている。

●メタバースについて、とても楽しみにしている。しかし、昨年8月の協議会では、どのようなものか説明もなく、今回事後報告ということで残念である。

→昨年8月の時点では、公にできる状況になかったため、今年2月に予定していた協議会で委員の皆様にご意見をお伺いしたいと考えていた。しかしながら、書面開催となり、機会を失ってしまったことから、大変申し訳なく思っている。この事業は、国のデジタル田園都市国家構想推進交付金を活用した事業であり、メタバース美術館を常設するという、全国的にも類をみない先進的で、挑戦的な取組である。委員の皆様には、メタバースを「どう活用するか」「具体的にどういった仕掛けがあったらおもしろいか」等についてはぜひご意見をいただきたい。委員の皆様それぞれにイメージを膨らませていただいて、事業の充実を目指して一緒に考えていただければと考えている。

●次回12月予定の協議会で体験できるものか。

→メタバース構築に係る事業者の決定が7月であり、その後、年度内の完成を目指している。12月の段階では具体的なものはお示しできないと思われる。機会があれば、他の美術館のVR展示やメタバースイベントなどもご覧いただきながら、次回協議会ではいろいろとご意見をいただければありがたい。

●特別展「縄文 小川忠博写真展」について、作品の解説がない詳しい理由は何か。

→作家ご本人の、これまでの博物館等施設での展示経験により、考古学的な「知識」ではなく、造形的な面白さや美的な魅力に目を向けてほしいという思いからである。他県でも同様の写真展を開催してきた中で、入館者から、解説を行わない展示手法が好評であったため、今回もご本人の強い希望によりそのように対応した。

●特別展「皇室の名宝と秋田」について、英語翻訳は誰が行うのか。英語と芸術の両方に精通した人が翻訳しないと、美術品の良さが伝わらないのではないかと思う。翻訳する人は非常に重要。

→今回、三の丸尚蔵館の紹介により、東京国立博物館の연구원の方に依頼している。これまでに、同様の展覧会で英語翻訳の実績があり、美術品についても非常に詳しい方である。

●インバウンドの方への告知方法は、どのように考えているか。

→公式ウェブサイトでの告知の他、秋田県国際交流協会や国際教養大学、秋田大学に協力をお願いする予定である。できるだけ広範囲に宣伝するよう努める。

●「みんなのキンビ」プロジェクトについて楽しみにしている。障害者本人及びその家族にとって美術館はハードルの高い施設だと感じる。美術館側から「来てください」と言っただけのことで、行動の範囲や視野が広がると思う。